

大学職員といふ仕事

奈良教育大学

入学主幹付入学試験係

中元 崇

私が地元大分を離れ、この奈良の

地にやってきて、ほぼ六年と六ヶ月

が経つ。平成八年四月、本学の小学

校教員養成課程社会専攻に入学し、

卒業と同時に大学院の社会科教育専

攻に進学した。六年間の学究生活？

の後、奇妙な縁で、今年四月から文

部科学事務官として本学で働くこと

となつた。

回生の二月の事であつた。普通は前年の十月頃から始めるものであるから、かなり遅いスタートである。
しかし、試験科目を絞つたのが功を奏したのか、国家公務員II種試験に合格。国家公務員試験では合格後各省庁の採用面接を受け、採用される必要があり、複数の省庁の採用面接を受け、最初に内定をいただいたのが文部科学省であつた。

■学生時代の頃

社会学（渡邊）研究室に所属して
いたが、論文指導の他、公私ともに
渡邊教官には大変お世話になつた。

また、他大学の研究会に参加したり、院生の先輩方と社会問題、教育問題などを論議したりするなど、学生生活は楽しいものであつたと思う。

■公務員試験について

公務員試験対策を始めたのは院一



オープンキャンパスにて

■職場としての母校

京都滋賀奈良地区の文部科学省職員の採用は、平成十三年度までは、

地区単位での採用だつた。だが、募集人員は圧倒的に京都大学が多いので、おそらく京大勤務であろうと思つていたら、今年二月に、勤務地が本当に变成了京都の奈良教育大学だ。

そして四月から、入学主幹付入学

新しい世界に入つて

神戸市立
桜野台小学校・教諭
中村 友子



3年3組の子どもたちと

この場で語ることでまた大學生との接点を与えたことに今は感謝の気持ちでいっぱいです。

■夢を叶えるまで

気がつけば、社会に出てもう三ヶ月になります。先日、クラブの部室に卒業以来初めて顔を出したとき、なんとも言えない懐かしさを感じるとともに、三ヵ月前はこんなにも笑顔あふれる中で人として悩み、真正面からぶつかっていたという、正直忘れかけていたものに気づきました。

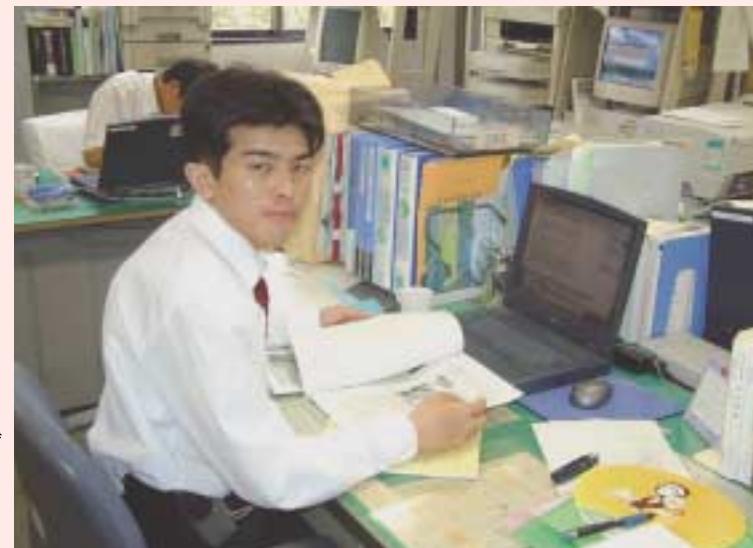
■教師になつて

念願の小学校教師を始める日がきました。赴任した時は職員室の真新しい机が先輩の先生方と同様に並べられていて、そこに座るということだけで鼓動が高まつていました。校長先生から「三年三組担任、中村友子先生」と言わると涙が出そうに

試験係として働くことになった。当初、「大学に慣れているから仕事もすぐに慣れるね」などと言われたものである。しかし、いくら在学年数が長くとも、それは学生としての期間であり、大学職員としてはまだまだ尻が青い未熟者であり、上司に毎日指導を仰ぐ日々を過ごしている。

学生時代、仕事といえば専門学校で講師をしたり、警備員として交通整理をしたりであつたので、事務職・公務となれば、目新しい事ばかりである。

さて、公務員の仕事のやり方で、一番印象深いのは稟議である。稟議



デスクワーク

で正確性を保持しなければならないという事がわかつてきた。

無論、正確性を追求することは言つてみれば当たり前の事であり、サービス提供が遅れる免罪符にはならないので、より迅速なサービス

が提供できるよう努力していきたいと思つている。

まだ働いて三ヶ月ほどであるので、職務上の成果らしい成果はほとんどないが、あえて言うならば「大学案内」と「入試情報のホームページ」などを作成・更新したことであろう。どちらも今年度に入つて、新しく体裁を整え、受験生によりわかりやすく内容を提供できるようにしている。

これから時期は大学院入試を始め、年度末まで入試係らしい仕事が待ち受けているが、体調を崩さないようにつていければと思つている。

というのは辞書によれば「官庁・会社などで、会議を開くほどに重要な事項について、案を関係者に回してその承認を求める」とある

が、その通りで、一つ書類を作つたら、その案件に関わる各課等の関係者まで書類の承認を求めてひと回りする必要がある。最初は面倒でスピードに欠けると思ったが、誤りが許されない公務の性質上、こういう形で正確性を保持しなければならないという事がわかつってきた。

社会などで、会議を開くほどに重要な事項について、案を関係者に回してその承認を求める」とある

が、その通りで、一つ書類を作つたら、その案件に関わる各課等の関係者まで書類の承認を求めてひと回りする必要がある。最初は面倒でスピードに欠けると思ったが、誤りが許されない公務の性質上、こういう形で正確性を保持しなければならないという事がわかつってきた。

無論、正確性を追求することは言つてみれば当たり前の事であり、サービス提供が遅れる免罪符にはならないので、より迅速なサービス

が提供できるよう努力していきたいと思つている。

まだ働いて三ヶ月ほどであるので、職務上の成果らしい成果はほとんどないが、あえて言うならば「大学案内」と「入試情報のホームページ」などを作成・更新したことである。どちらも今年度に入つて、新しく体裁を整え、受験生によりわかりやすく内容を提供できるようにしている。

これから時期は大学院入試を始め、年度末まで入試係らしい仕事が待ち受けているが、体調を崩さないようにつていければと思つている。

あ

と

ひ

なるのをこらえて返事をしたことを思い出します。この日から何から何まではじめての戦いの日々が始まりました。

四月八日、いよいよ生徒たちと対面です。若いだけしかとりえがない今の私を、それだけで喜んでくれる生徒たち。その生徒たちに応えようと、名前はその日のうちに全部覚えました。

毎日、休み時間になると必ずするオニゴッコで、どれだけ筋肉痛になつても、みんなの笑顔が忘れさせてくれます。四月はとにかくフレッシュな私と、三年生になりたてのフレッシュな生徒たちとのぶつかり合いでした。

そんな中、私は研修の嵐という苦悩の日々に突入します。五月から本格的に月・火・木の三日間は研修日、初任研講師という私の専任講師もつきました。そのため教室を抜けていく私を見た生徒たちは「修行」といつて温かく見守つてくれます。

「今日も修行？」はよー帰つて来てや」「いってらっしゃい」「おかげりー」みんなが声をそろえて送り出してくれる中、何度も涙をこらえて教室を出る日が続きました。五月

た生徒の一人が転校するときです。転校することに不安な彼女が「私は友達いっぱい作つてがんばるから修行がんばりや」と言つてくれたとき、必死に現実を受け止め、小さなカラダで立つている姿を見て、私は踏ん張ることができたのです。

私は、この一年でみんなに何ひとつ与えることも残すことができないのではと思つていました。しかし、あるお母さんから、「先生が修行した時、一緒に作り上げてがんばっている姿を見て、子どもたちは毎日負けずにがんばっている」と言われた時、一緒に作り上げてがんばっていることを実感し、今の私を受け入れられたのです。

子どもは正直です。どんなことでも受け入れます。今、私が取り戻しましたことは、ありのままに素直に現実と戦うことです。後輩のみんなにも

この言葉を送りたいです。きっと答が見つかると思います。大学生活では、大いに現実と戦つてください。

